

第2部 鉄道交通

第1章 鉄道交通事故の動向

1 近年の運転事故の状況

鉄道交通における運転事故は、長期的には減少傾向にあり、昭和60年には、1,627件であったものが、平成8年には1,012件、18年には821件となった（第1-39図）。18年は前年比9.3%減、列車走行100万キロメートル当たりでは0.62件で前年比7.5%減となった。

事故種類別の発生件数についてみると、踏切障害が359件（43.7%）、人身障害370件（45.1%）、道路

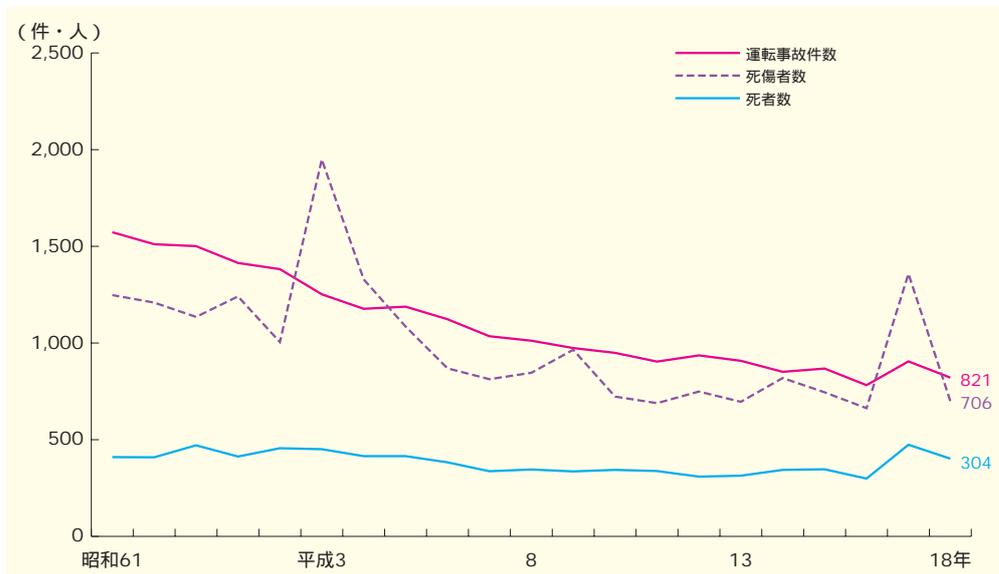
障害64件（7.8%）となった（第1-31表）。

運転事故による死傷者数は706人（うち死亡者304人）で前年比48.0%減となった。

2 平成18年中の列車事故の状況

列車事故（運転事故のうち列車衝突事故、列車脱線事故及び列車火災事故をいう。）の件数は19件（運転事故件数の2.3%）であり、前年と比較すると14件減であった。

第1-39図 鉄道運転事故の件数と死傷者数の推移



注 1 国土交通省資料による。
2 死者数は24時間死者。

第1-31表 事故種類別の運転事故の発生状況

(平成18年)

区分	列車事故				その他の事故					合計
	列車衝突	列車脱線	列車火災	小計	踏切障害	道路障害	人身障害	物損	小計	
件数(件)	4 (0.5%)	15 (1.8%)	0 (0.0%)	19 (2.3%)	359 (43.7%)	64 (7.8%)	370 (45.1%)	9 (1.1%)	802 (97.7%)	821 (100.0%)
死傷者(人)	31 (0)	54 (1)	0 (0)	85 (1)	221 (114)	23 (1)	377 (188)		621 (303)	706 (304)

注 1 ()内は、死亡者数で死傷者の内数である。
2 踏切障害とは、踏切道において列車等が人又は車両等と衝突した事故のうち列車事故に至らなかったもの。
3 道路障害とは、踏切道以外の道路において、列車等が人又は車両等と衝突した事故のうち列車事故に至らなかったもの。
4 人身障害とは、列車等の運転により人の死傷を生じた場合をいう。

運転事故

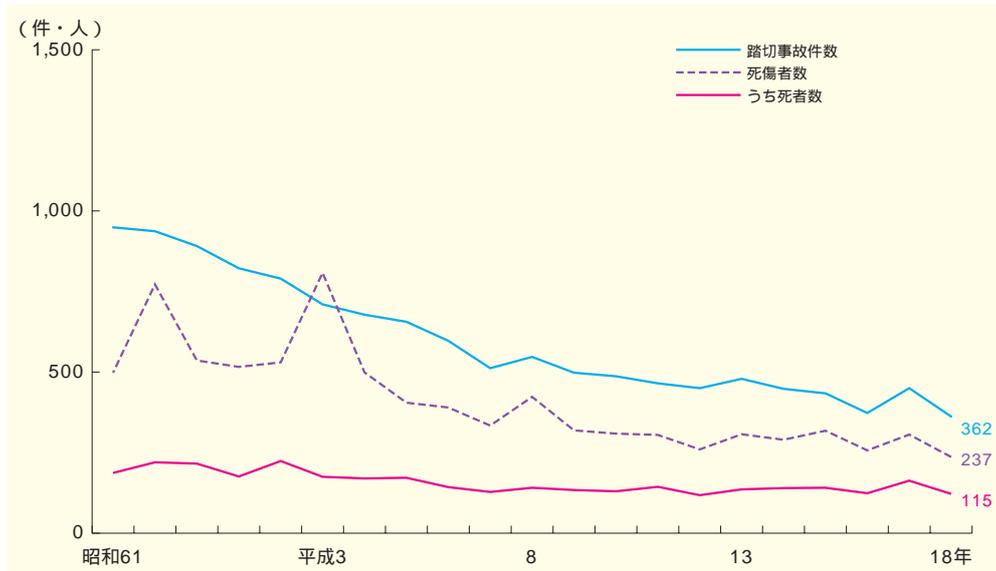
列車衝突事故、列車脱線事故、列車火災事故、踏切障害事故、道路障害事故、鉄道人身障害事故及び鉄道物損事故をいう。なお、軌道の運転事故は、鉄道運転事故と同様に定義する。

列車事故を原因別にみると、車両・鉄道施設によるものが6件、係員の取扱誤りによるものが3件、鉄道外によるものが3件、自然災害によるものが7件である。

3 平成18年中の踏切事故の状況

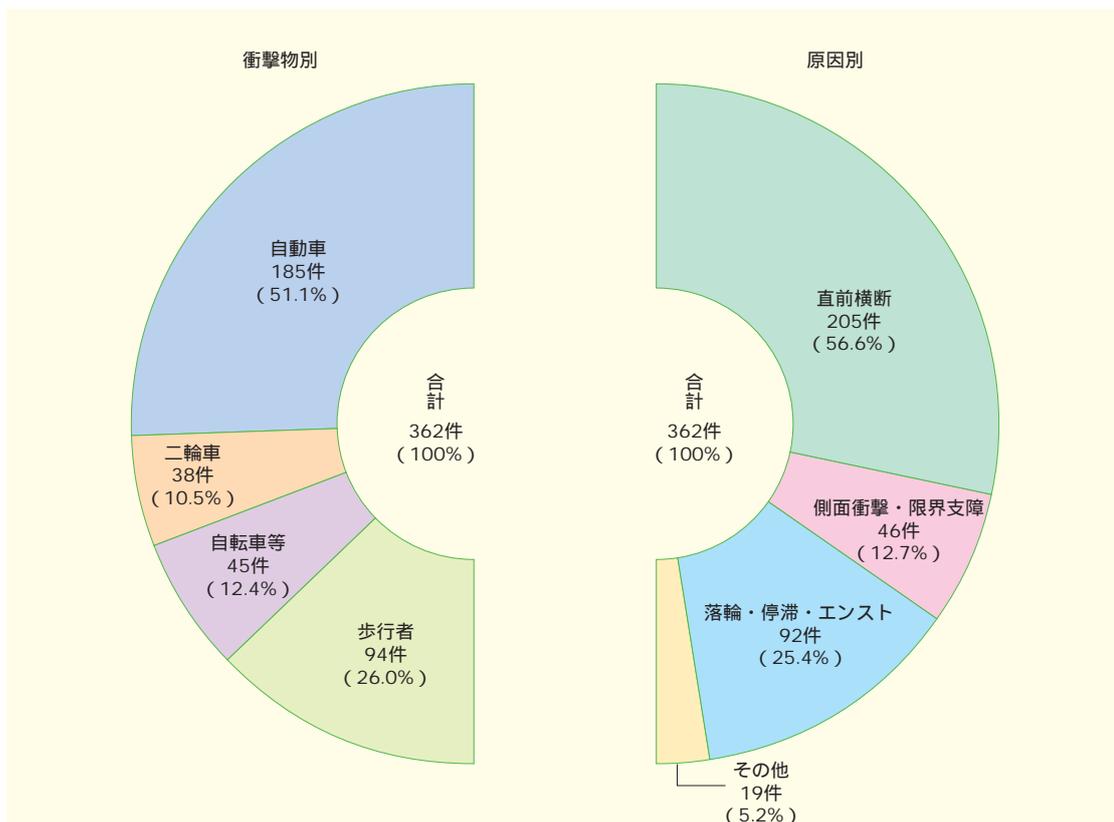
踏切事故は、踏切保安設備の整備等により、運転事故と同様、長期にわたって減少傾向にある。平成18年中に発生した踏切事故の件数は362件で前年比19.6%減であり、運転事故（821件）の約44%を

第1 40図 踏切事故の件数と死傷者数の推移



注 1 国土交通省資料による。
2 死者数は24時間死者。

第1 41図 原因別・衝撃物別踏切事故発生件数（平成18年）



注 国土交通省資料による。

占めた。また、死傷者数は237人で前年比22.5%減となった（第1-40図）。

踏切事故の発生原因は、列車が通過する際の直前横断等道路交通側に起因するものがほとんどであり、衝突した相手側としては、自動車が高い割合を示している（第1-41図）。

また、踏切道の種類別にみると、発生件数では第1種が最も多いが、踏切道100か所当たりでは第1種が最も少なくなっている（第1-32表）。

第1-32表 踏切道種別の踏切事故発生件数（平成18年）

踏切道	踏切道数	件数	構成率	100か所当たりの事故件数
	か所	件	%	件
第1種	30,291	290	86.0	0.96
第2種	0			
第3種	1,066	11	3.0	1.03
第4種	3,873	61	11.0	1.58
計	35,230	362	100.0	1.03

- 注 1 国土交通省資料による。
 2 踏切道種別は、次による。
 第1種 自動遮断機が設置されている踏切道又は昼夜を通じて踏切保安係が遮断機を操作している踏切道
 第2種 1日のうち一定の時間だけ踏切保安係が遮断機を操作している踏切道
 第3種 警報機が設置されている踏切道
 第4種 踏切保安係もならず、遮断機も警報機も設置されていない踏切道
 3 踏切道数は、平成17年度末の数字である。

4 平成18年中の鉄道交通における重大事故の発生状況

平成18年4月5日に発生した京王電鉄京王線の列車脱線事故、18年6月13日に発生した東京都交通局荒川線車両衝突及び18年11月19日に発生した西日本旅客鉄道津山線の列車脱線事故である（第1-33表）。

第1-33表 重大事故一覧

（平成18年）

発生日	事業者名	線名・場所	事故種類	死傷者数	脱線両数	主原因及び概要
4/5	京王電鉄	京王線 代田橋駅～ 明大前駅間	列車脱線	13 (1)	1	走行中、代田橋6号踏切道に進入してきた乗用車と衝突し、脱線した。
6/13	東京都交通局	都電荒川線 梶原停留場～ 栄町停留場間	車両衝突	30 (0)	0	停止していた先行車両に衝突した。航空・鉄道事故調査委員会にて原因調査中。
11/19	西日本旅客鉄道	津山線 牧山駅～ 玉柏駅間	列車脱線	25 (0)	2	落石の影響により、当該区間を走行していた列車が脱線した。航空・鉄道事故調査委員会にて原因調査中。

- 注 1 国土交通省資料による。
 2 重大事故とは、死傷者が10名以上又は脱線両数が10両以上生じた事故をいう。
 3 死傷者数の（ ）内は、死亡者数で内数を示す。

踏切事故

列車事故のうち、踏切道において、列車又は車両が道路を通行する人又は車両等と衝突し、又は接触した事故及び踏切障害事故をいう。